

繪入

武家重寶記

五冊

五

ケ 5

99

5

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25



印家重寶記卷之五

目錄

- 一
- 二
- 三
- 四
- 五
- 六

馬子糸より始付らるる乃名所と云ふ

乃毛矢乃

鞍の名所と云ふ

響の名所と云ふ

鐙の名所と云ふ

具の名所と云ふ

鞍圖

響圖

鐙圖

鞍  
響  
鐙

鞍  
響  
鐙

鞍  
響  
鐙

鞍  
響  
鐙

鞍  
響  
鐙

鞞

鞞

鞞

鞞

鞞

鞞

鞞

七

騊駼馬のついで

八

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

一 二 三 四

騊駼馬のついで

武家重寶記卷之五

一

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

騊駼馬のついで

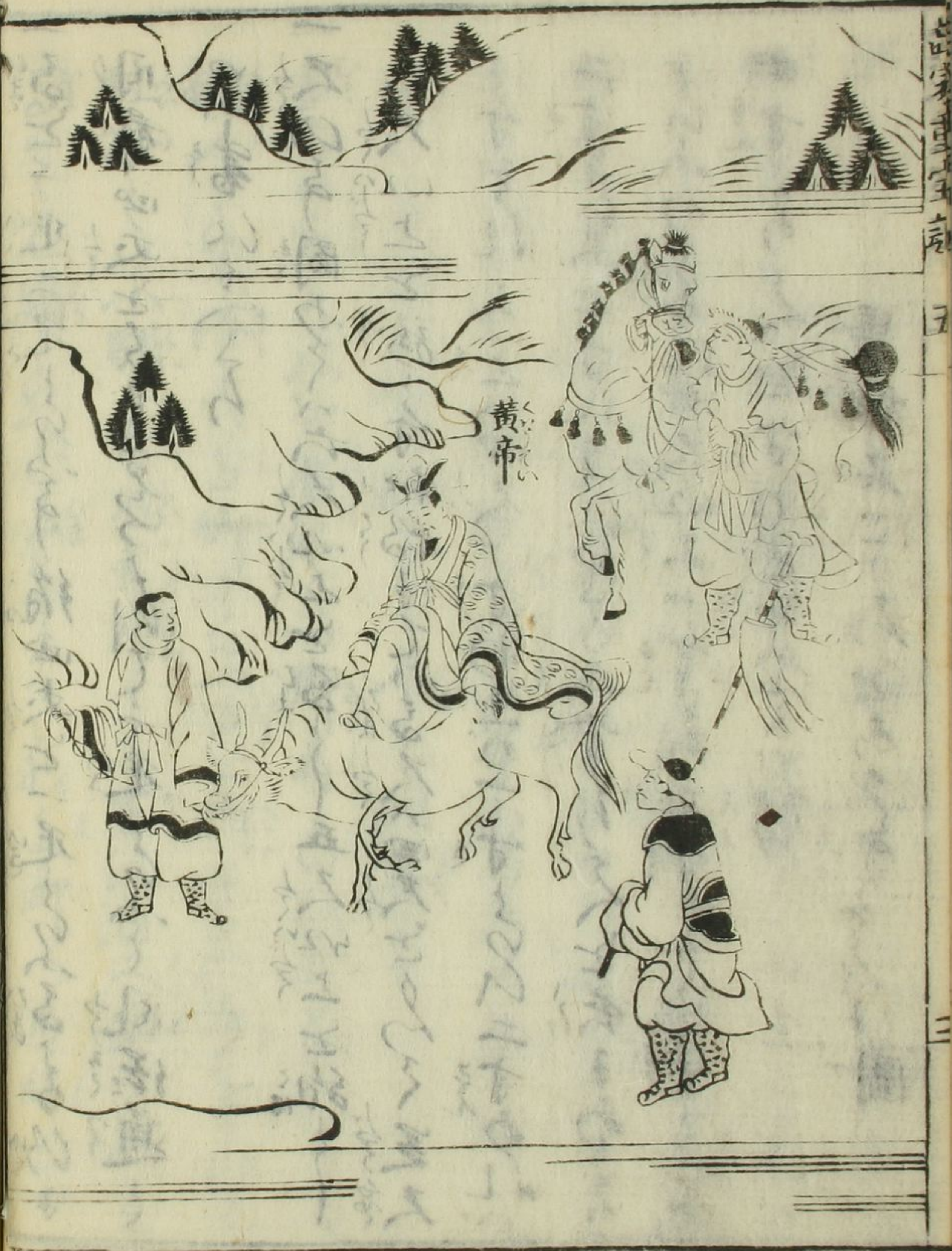
脚小はてな一ひやう一胸の洞くぐり一肋骨の十二  
條と良くと蹄の徑實のぐり一腋下の毛色と毛と  
生むつこのを良くとこの外に毛ぬり二相あり又駿  
馬わり造るあり余るあり又驚るあり癖るありそ  
まより下として小并結る結る等あり乃り方ハ脚子  
付くありいざしを今に畧す

一馬の口を色姑と唐にく御者より武家にくわ  
櫛人より俗より御よりと御よりに夢をくけ  
駆除くく馬青玉麦良く多書に又胡よりく  
馬より見鬮よりく馬より馬より御より通癖あり

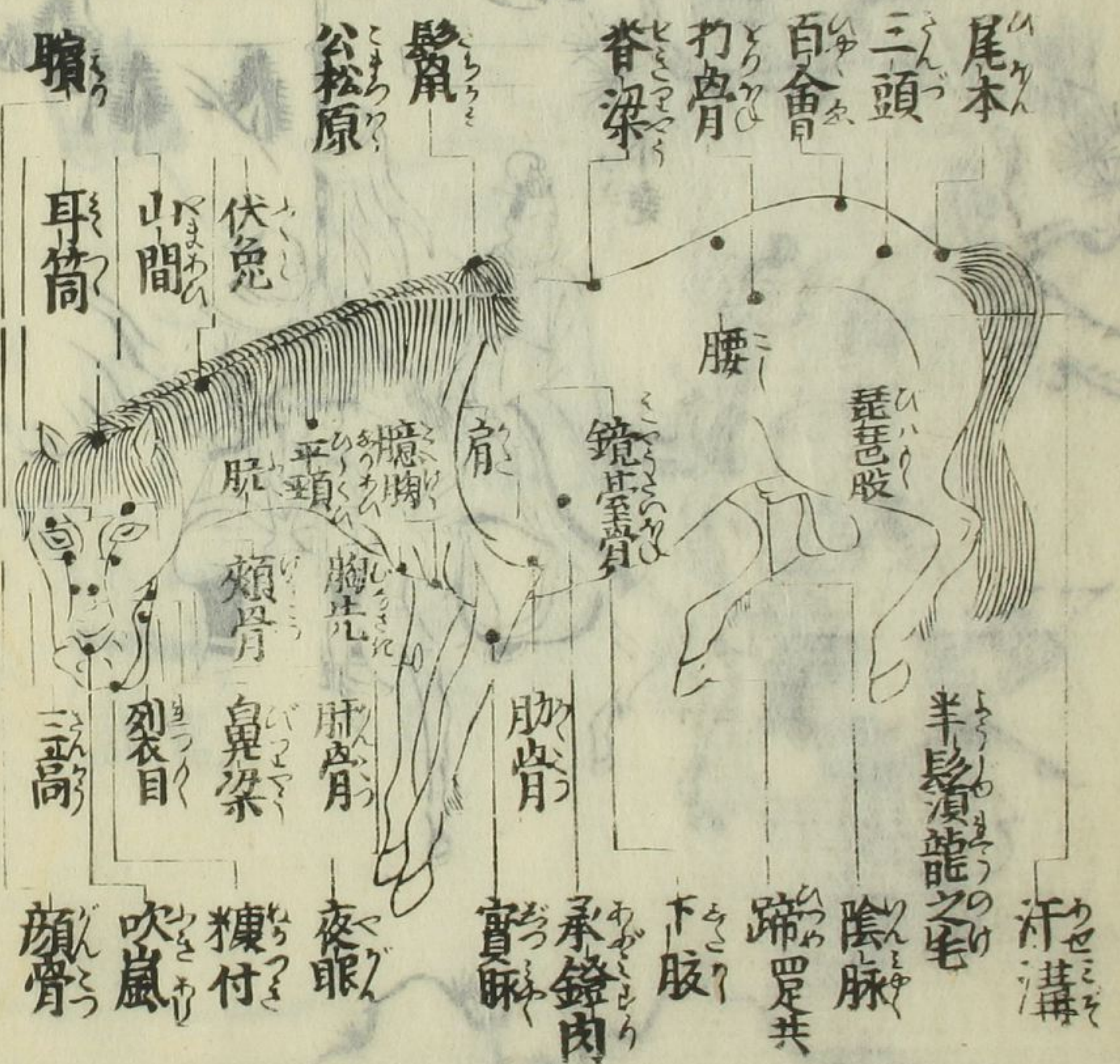
一馬と一疋二疋よりより縮四丈と一疋よりより  
同前四丈とよりよりしよりより一疋よりより凡俗通と  
馬書によりより

一尺の身周より六尺以上とよりより五尺以上と約より  
八尺以上と約より手和約より八尺以上とよりより  
と寸よりより上へ四尺一寸よりより一寸よりより二寸よりより  
二寸よりより七寸八寸よりより八寸よりよりと長よりより  
とよりより書に四尺以上一寸よりより三寸よりよりと寸と寸  
四寸よりよりと寸と寸とよりより

馬形名とよりよりとありよりより 図



馬形名之所之圖



一平頸の頭と肩と其間の物名あり因もくありて  
 と良と守面の竈馬頰ありとふりてありあり  
 一山間 双耳如むりてあり頰髪とる毛とのこも山間  
 の毛と毛頰中髪とよりみけとらと野髪と云  
 又眼際やとくをいふ  
 一耳筒の支耳管のどくありゆへ耳管ともいふ耳  
 のどく死をいふとん人と名く耳と伏の雲相あり  
 一眼の両目のと小く死をいふ一眼骨の目のおれ骨  
 一三つの面中の溝をいふ三溝とも三行とも云ふ  
 一鼻梁の鼻乃中道よりらへ傍の鼻と縁といふ

馬形名之所之圖

馬

一吹角の鼻のわがぬりまわりの鼻の物名とす

吹角のわがぬりまわりの鼻の物名とす

一糠附の上のわがぬり吹角の下りのまのまの糠振とも云

一肝骨の下かどぐいの頰骨の頰車の骨の三ヶ所の骨とも云

一裂目の口の裂目のわがぬり清と良とす今の懸掛とも云

一伏兎の頭髪乃のわがぬりまわりのわがぬり

一鬘の頂上のわがぬり毛の今よりまわりの又鬘甲とも云

一小松糸の伏兎と鬘甲との間との山同より作られた

山色は比なれこの名あり又弁に

山同の兎の毛の今よりまわりの又鬘甲とも云

一骨端の骨のわがぬり今より居居糸あり

一百合のわがぬり今より居居糸あり

一三頭の三山骨とも三峯とも色り骨相乃三行あり

とりのて名はく西色の骨乃とると同形と骨

わがぬり今折骨と汗溝乃よま

一格脊骨の桂川とも色り三頭の多と桂川の凹あり弁に

三山峯のわがぬり今より居居糸あり

一尾の今より尾は尾株あり大つと良とす

一汗溝のわがぬり鹿の西骨の凹あり今より居居糸あり

一琵琶股の今より居居糸あり

その下せらるゝと二股とらふ又鳥帽子形に段ハ寂子五

一多胸ハハハけらるゝあつゝあつゝ又入海の骨と毛

一臍胸ハ 西乃股根のまゝに五襟合とらふ

一下腹ハ 腹の惣名あり膝らあつゝと吐下とらふ段の上

胸乃方と胸弁とらふ

一胛骨ハ 前足乃はけ根あり鏡着骨に下つゝあつゝ鏡

着骨ハ鏡の節とらふ名子とてあつゝ鏡骨せらふ

一前脚ハ 前足の骨ありうらゝに夜眼とらふとのわら

それかゝら輝のぞゝ故に附輝とらふ老若乃節

鏡の節とらふあり

一後脚ハ 中よりと珠持の節とらふ又其の鼻の骨と云

一蹄の後乃毛と羊皮袴の毛とらふとらふとらふとらふ

乃乃と細端とらふ段乃付根と色蕉とらふ

一兼鏡肉ハ 兼鏡肉とらふ守一陰縁ハ倍小とらふとらふ

一馬足とわらゝと高とらふとらふとらふ洗とらふ

二 毛の文法

一白馬 〇黒馬 〇鹿毛 〇栗毛 〇駒馬 〇桐子栗毛

〇河原毛 〇白馬黒毛の毛 〇糞毛 〇糞毛

〇鏡毛 〇鏡毛 〇鏡毛 〇鏡毛

〇鏡毛 〇鏡毛 〇鏡毛 〇鏡毛

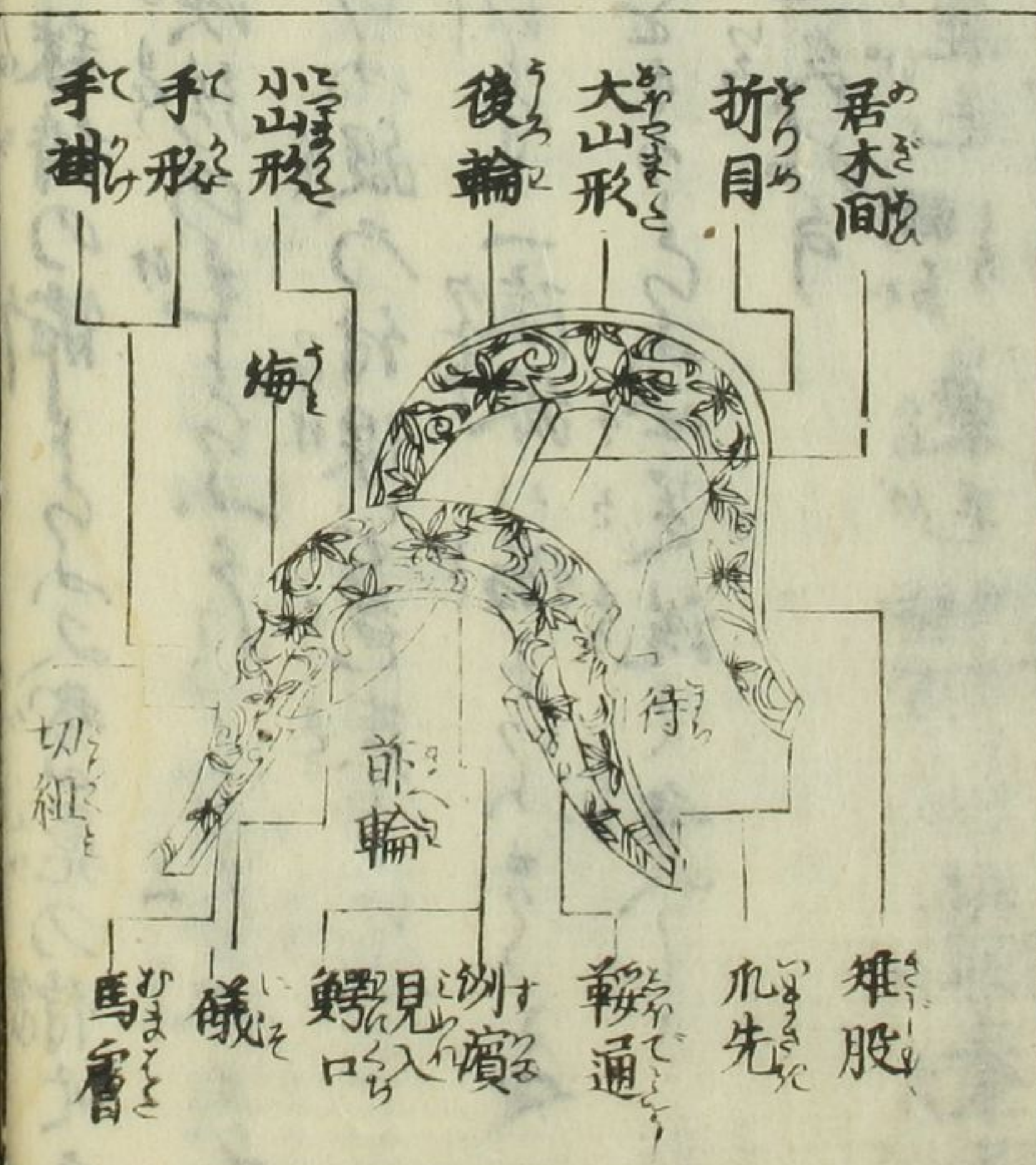


これ見。蹄白踏聖馬。顔白。戴星馬。の類。花の外。白くわり。悉く。はみ。ゆめ。の。は

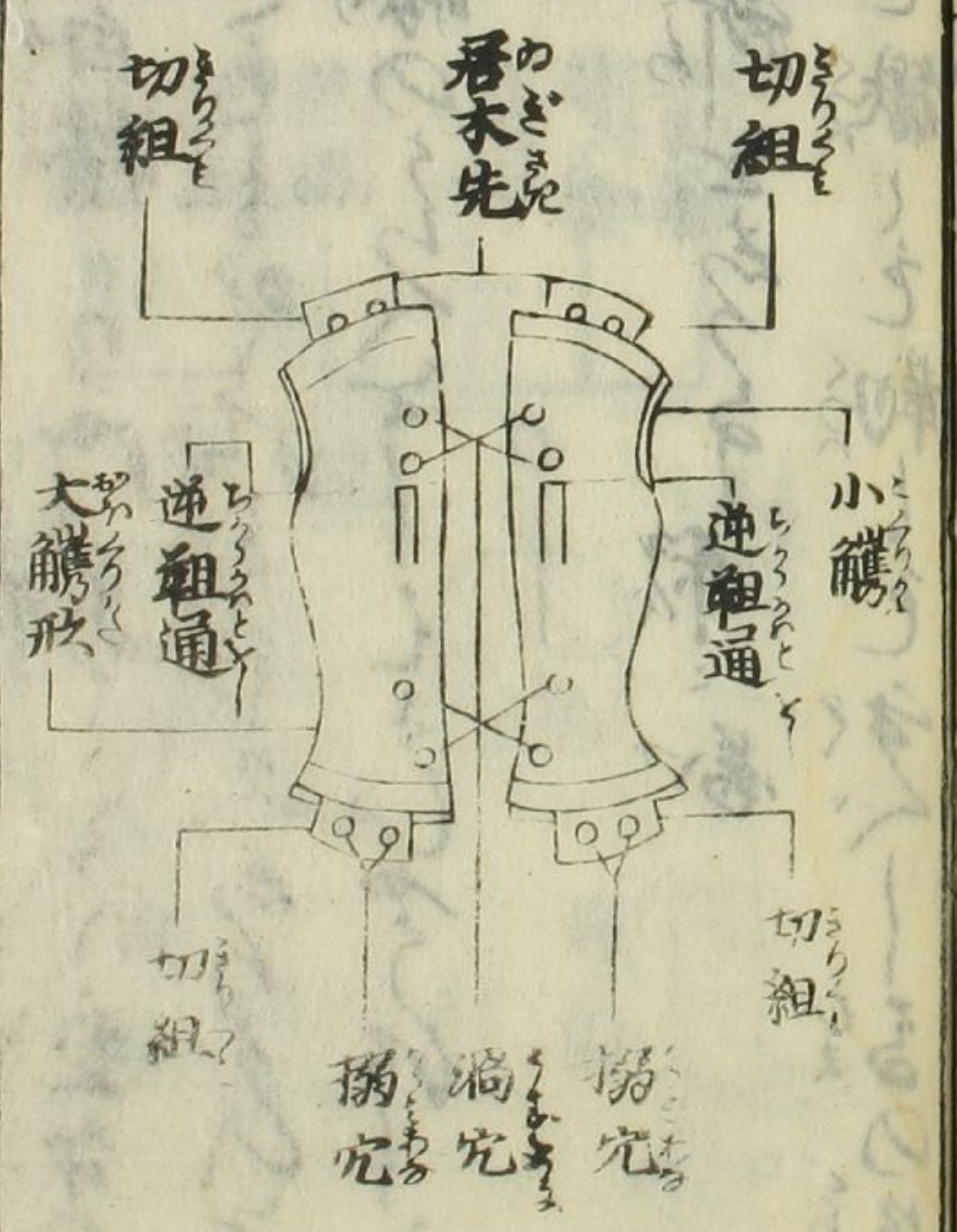
(三) 鞍の名所とあるもの類之圖

鞍の三代同。津より始り。唐人。又。津輪後津輪を。よ。し。

鞍之圖



覆鞍之圖



一鞍は。その。物。一。居。木。木。一。と。お。あ。

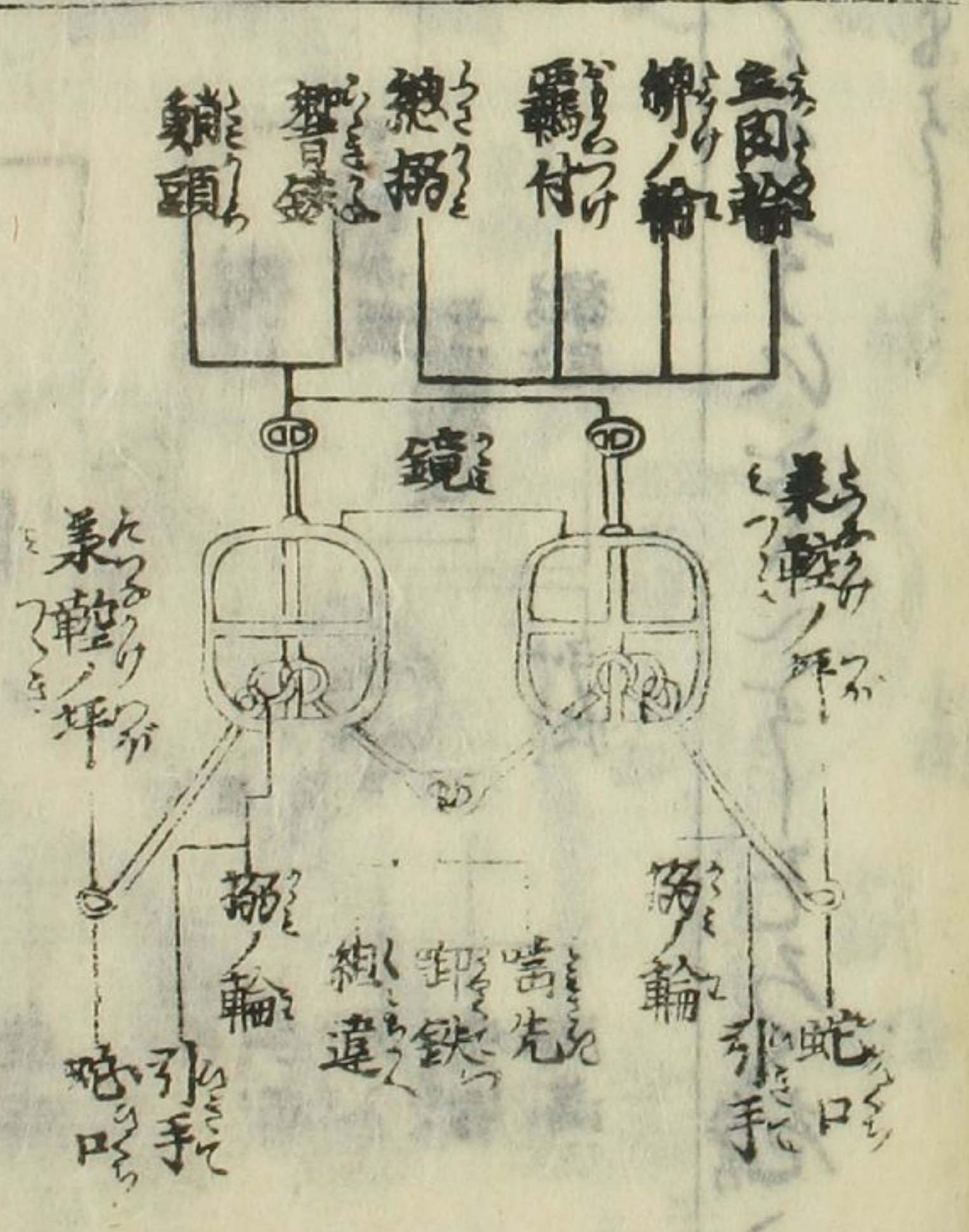
うさば鞍このお鞍を介してありある一は  
 鞍とさぐおへしてま鞍よりほりあるはとらう  
 ろるにおのよとけあすはふにうくへらあは  
 にくうりあそこれものそありにたの方こそ  
 かりあぬまべし白鞍あり所あはくまあり  
 鞍と引出物すのこもゆめとく又ありがひを  
 へらうらあけら鞍のうらとくしさいやうけ  
 せんどうあり

四 鞍の名所とあうり鞍のあ

一 鞍の銜とを鎌とを鐵とを靴とをすべしるの口  
 中の鉄と靴とのふ

- 一 鞍ハ一口ニ口と
- 一 鞍ハ一口ニ口と
- 一 鞍ハ一口ニ口と
- 一 鞍ハ一口ニ口と

鞍の之の圖



五 鞍の名所とあうり鞍のあ

一 鞍の頸逆組とかくふ不と鞍具頭といふと鞍以  
 とりあわくしうら鞍中が鞍鐵と鞍踏金といふ今

俗子引通と申  
一足二足

一錠と主人、進  
まらふとぐぬじ

一に持来と  
一はあはくを

かぞへ押さく

はたなまははしほふとやうにさくへさくそくた  
徳海のいふもさうにもさう

六、三具の品々

一、新繁鞆とも

一、又鞆頭もふ

一、毛乃かざらん

一、鞆の有り胸袋とふ

一、鞆の有り尾はるを

一、こいへ緇鞆とをり

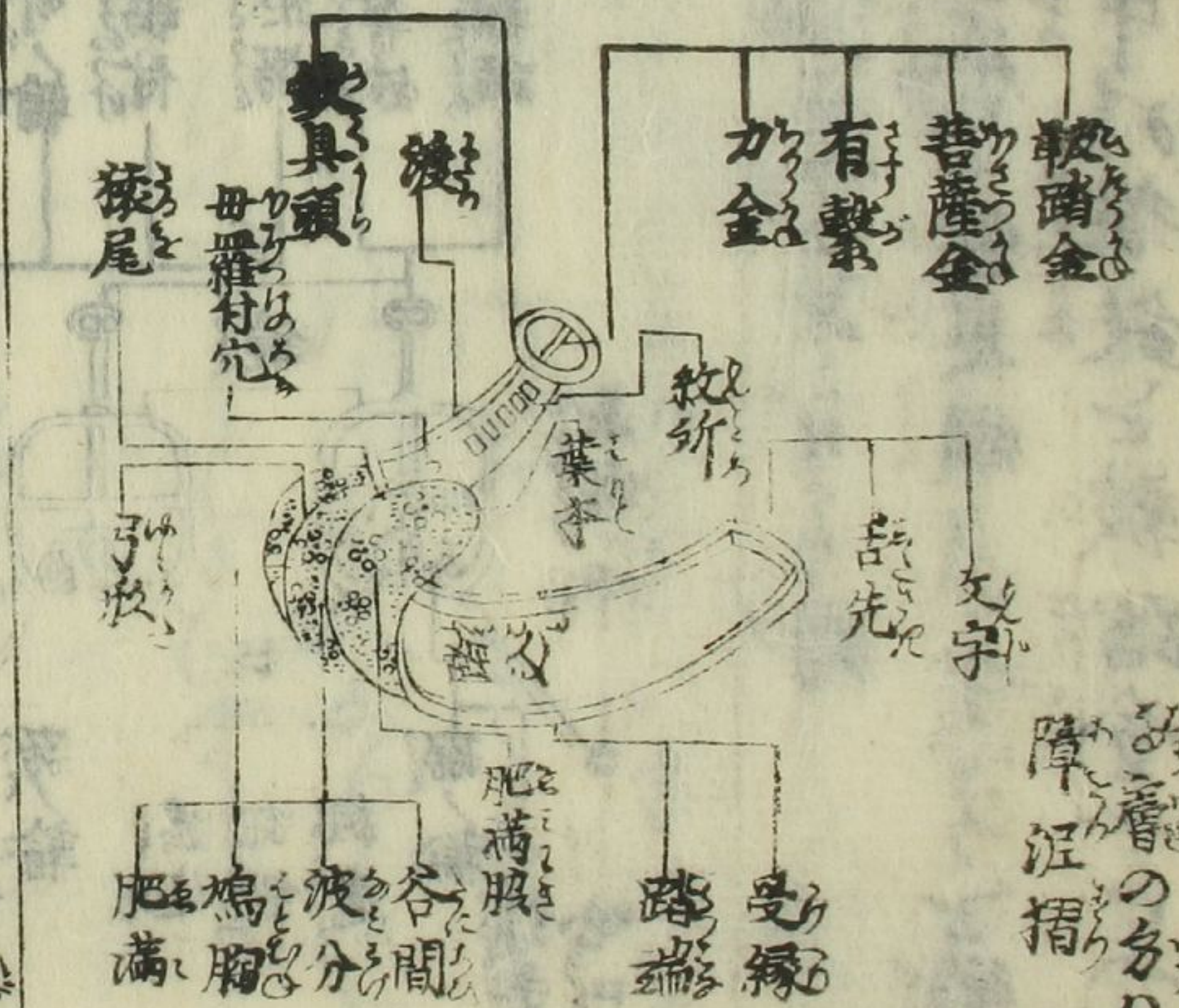
一、鞆鞆鞆乃

三品と馬の二つと云

錠

之の

圖



絲

之の

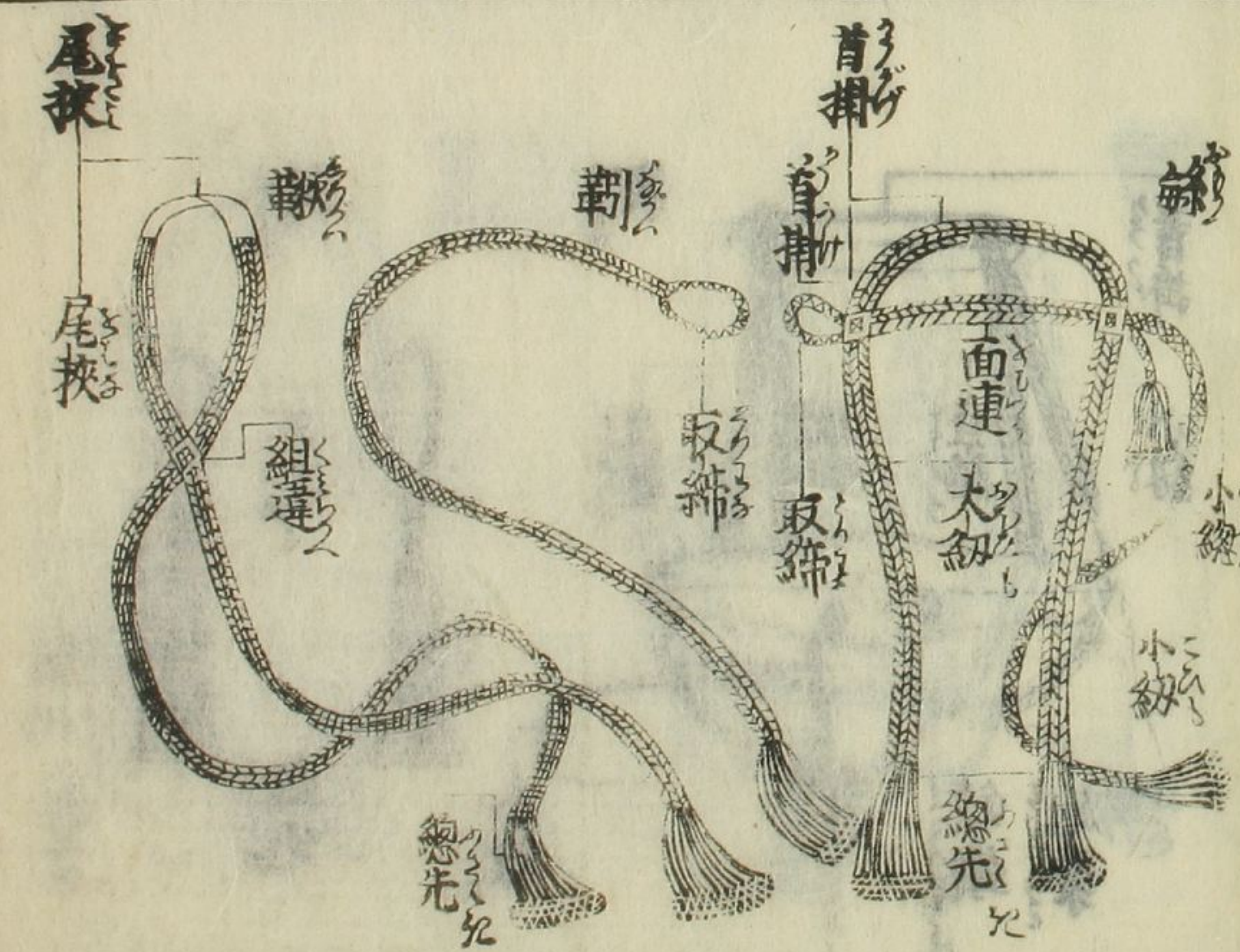
圖

鞆

鞆

之の

圖



一縛 いる毛のよの  
 かたり 繁糸のわすり 認  
 ありふぬ ぬともす  
 お緒へ一懸とよ  
 一靴 いるの鼻上とわ  
 うち 幸へ頭上は五と  
 首掛しつる 首掛靴  
 ひとら 素と且靴と  
 り 喉よめくふと根  
 靴 云願の下に之と

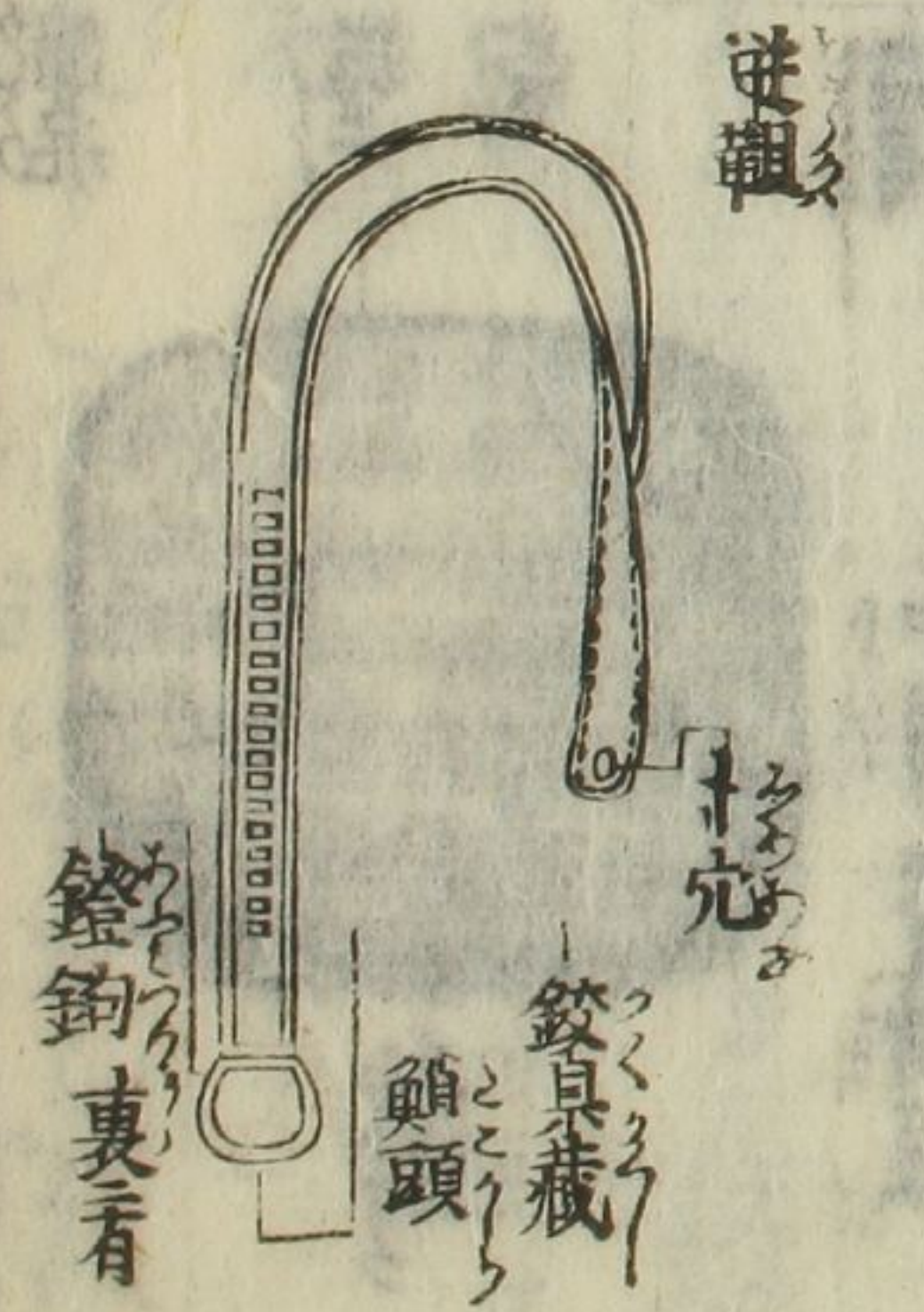
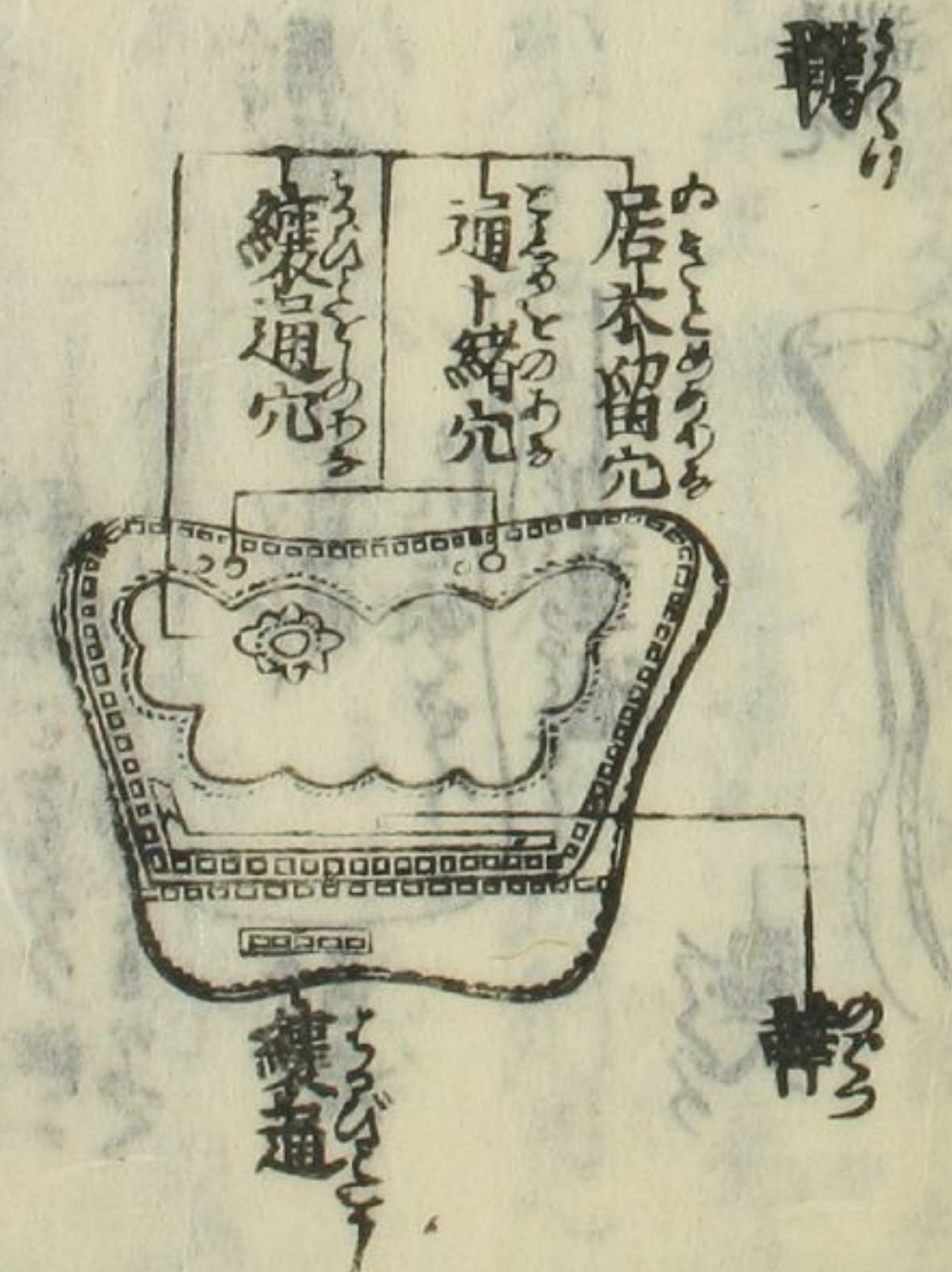
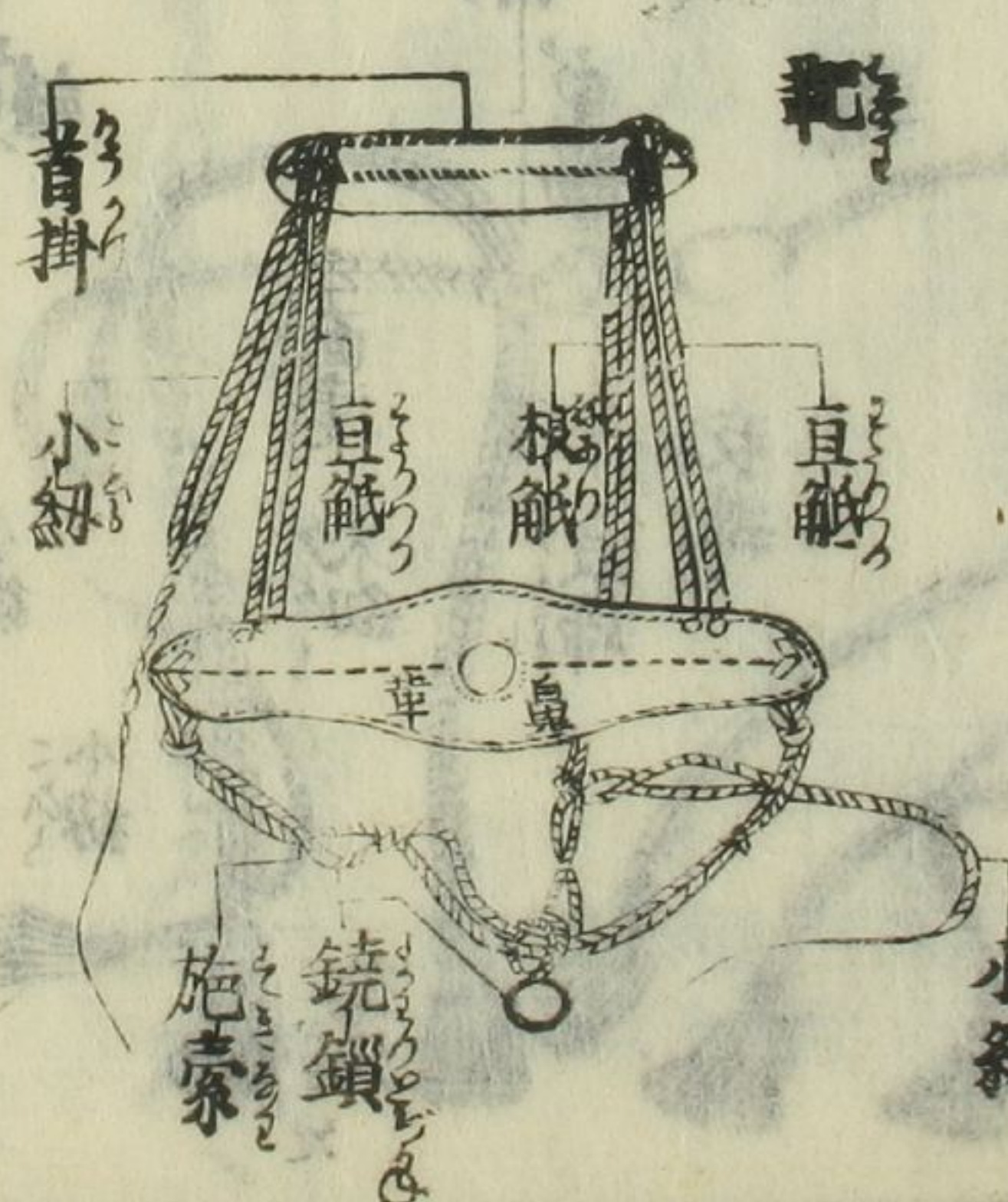
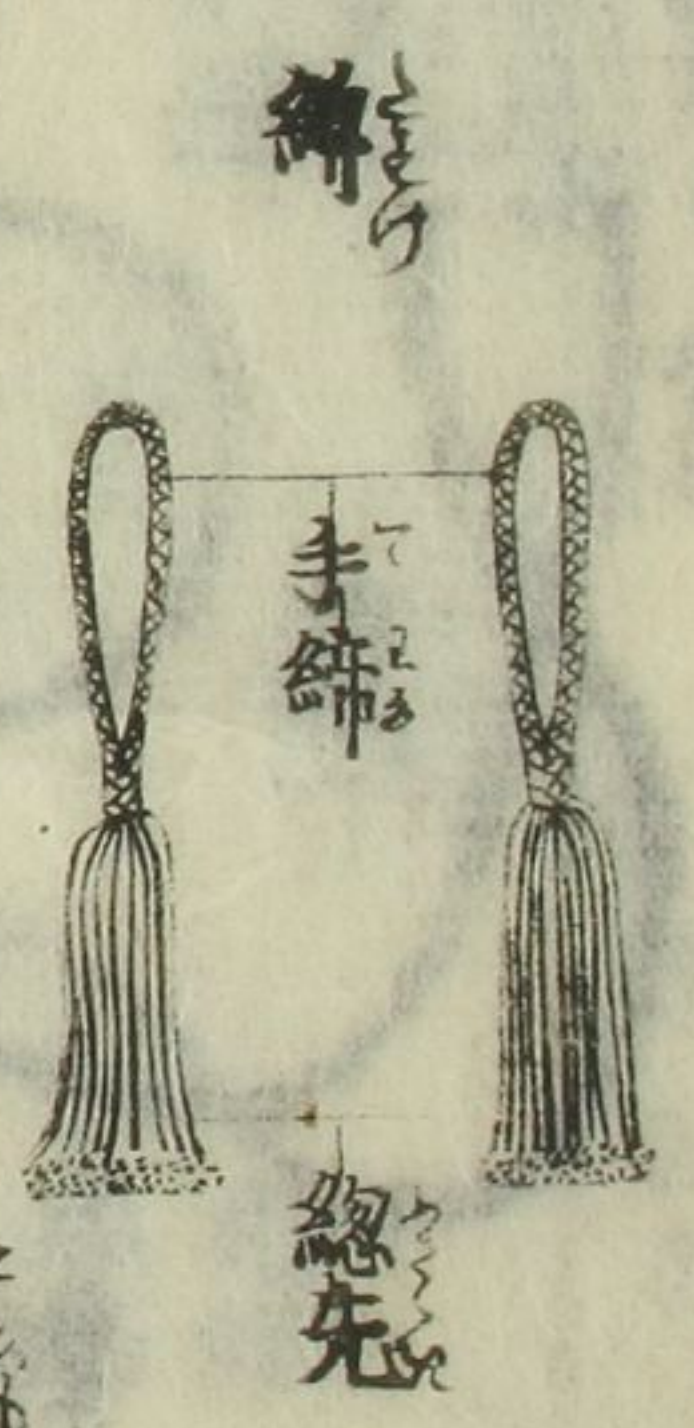
縛之の圖

靴之の圖

施索と云 鉄鑰付  
 一間二間 一掛二掛と  
 一籠 上切付下切付  
 わり下切付の皮膚と  
 り三枚切付の革乃  
 多々うと雲珠とよ  
 一逆組 一登とよ  
 一掛とよ 一籠組  
 今の 筋頭とよ 足と  
 厭 死不形をい

籠之の圖

逆組之の圖



障泥ハ葎泥とも轆

と色輪ともまべ

鞍乃かり一差と云

一馬轡ハ轆上の被

被ともまへ又あはれ

輪へともまへと云

五皮の轆轡と云

板轡乃外ハ一差と云

一轆ハ轆色ハ帯

四方女と色轆とも鞍

と色まへ一捕付物付と云

一轆ハるの頭とまへ

かどりけと色と頭

一縷ハるの帯あり八尺

一鞆ハ皮の縄鎖あり

二重帯と云一丈二尺

一版懸ハ縄あり平伏

一鞆ハ縄轆鞋と色

一物ハるまへと一物

一物通縄ハ願乃下

武家重宝記 五

障泥之圖

馬轡之圖

轆之圖

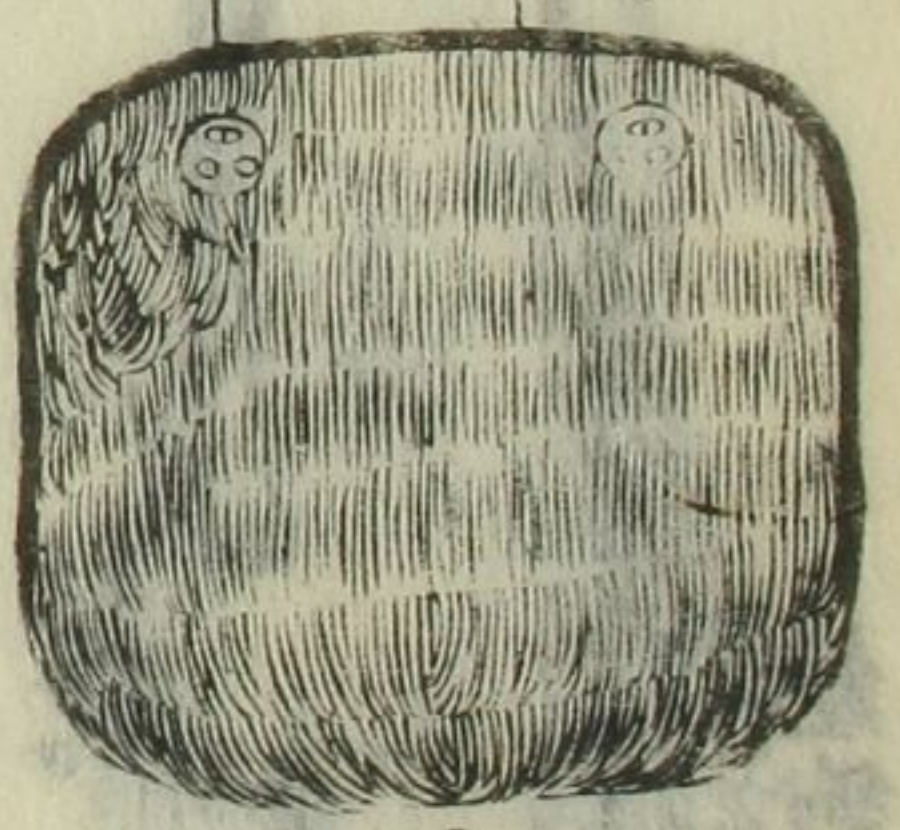
障泥

鞆

轡

馬轡

轆



鞍

中間ヲ鍔貫挿と云

耳脇 耳紳とも云

息出

加革通

鞆

と色まへ一捕付物付と云二物五に備えられと一物と云  
一轆ハるの頭とまへ縄あり三尺縄と色まへる不素  
かどりけと色と頭とかと色とまへとれとわね利用  
一縷ハるの帯あり八尺わろハ九尺三寸利子と云  
一鞆ハ皮の縄鎖あり曝布あり利用子と云  
二重帯と云一丈二尺又ハ好子と云これと一卷と云  
一版懸ハ縄あり平伏と禁がらとわね坊の上と云  
一鞆ハ縄轆鞋と色まへと云ハ八尺又ハ九尺三寸  
一物ハるまへと一物二物と云  
一物通縄ハ願乃下と云轡子通と云當胸の下と云



一 後帯 (いもべ) 休るものありるはみと上とせき下丸團子  
 一 鞆肥の蠟壳 豹壳 毛織の類物 枚并みかき  
 鞆覆 一 懐 一 懐 一 被 一 靴 鞆肥 せきとせき  
 一 太覆の體捲ともせき 一 扇の啓のふよかろる物あり  
 徳窓 畦縫 笠あり 大小 長短 方圓 あり  
 一 扇 福の上 右の太布をとりて 近代的 扇 松竹の繪  
 絹 紬 紬 紬 あり 五丈の女 五丈あり 四尺三五寸  
 一 策ハ 箠とも 策とも 鞭とも せき 一 節をとも 船かろる方  
 とせき 節の 鞭とも 節の せき あり 方と 鞭とも あり

七 駒馬 六つ け ぬ け  
この馬 六つ け ぬ け 二尺七寸 あり ぬ け 一 軒 とも

七 駒馬 六つ け ぬ け

一 馬 一 乃 馬 二 乃 馬 とも あり 入り 口  
の 二 尺 七 寸 一 乃 馬 とも あり 入り 口 二 乃 馬 とも  
あり 入り 口 二 乃 馬 とも あり 入り 口

一 馬 七 寸 七 寸 の け 物 あり 馬 形 尻 橋 懸 尻 橋 包  
下 鞆 通 繩 葉 筒 富 藁 馬 刀 以上 七 寸 八 寸

尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり  
尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり  
尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり

一 十五 又 七 寸 九 寸 あり 一 尺 あり  
一 尺 あり 一 尺 あり 一 尺 あり

一 馬 尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり  
尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり

一 馬 尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり  
尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり

一 馬 尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり  
尻 橋 包 七 寸 法 九 寸 八 分 八 厘 三 寸 五 分 あり

一人はふるまのそとれたりがしりまらうんは女おんなと  
らしてひきかへしうらうらひきまひひきひきひき  
女はあかきとねそかえりひきひきひきひき

一人の佐あきるを庭にわのりきりひきひきひきひき  
たき相云ふとたひきまはたきひきひきひきひき  
まよひひきひきひきひきひきひきひきひきひき

一のりはとつそこのらたひひひひひひひひひひ  
の三どんと輪わのひき物ものひきひきひきひきひきひき  
とちて鑑あかしとぬひひひひひひひひひひひひひひ

一足さうりしてたへ三どんおもしろして主人お主人のひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

右のとぬひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
侍さむらい等ひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

一人のる鞍いさなひひひひひひひひひひひひひひひひ  
一人のる鞍いさなひひひひひひひひひひひひひひひひ  
はひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

一人のるひ鞍いさなひひひひひひひひひひひひひひひひ  
一人のるひ鞍いさなひひひひひひひひひひひひひひひひ



とつ柄のこまはくろつる

一 小綱よりやうなる流水 大十文字 小十文字 日月

おしはねかこりつてのひと綱あり

流水のひと綱のなまうい三巻にうへ陽のひと綱は

十文字のなまういひと綱中はくじまび十文字のなまうい

約五一のひと綱

日月のひと綱はあまにいととてうへれ霜入のひと綱

書乃ひと綱つひと綱たうへへ朝夕のつひと綱

なやうなひと綱つひと綱とてうへへ

小ひのひと綱はくろつる小柄にうけてうへあり

一 弓のわくたをあげひらうや草草とてた柄はくろ

とみつてうへへあまのひもさすべし

一 檜のりうなるひと綱とおろしうて鏡をうけて

鏡とらしてさとしをへへ月つけ耳のり

一 赤たおのひと綱とらたおと柄はてけへ

一 片ひと綱とらたおのひと綱を丸めてけへ

大差らのひと綱はくろつる

一 具足系もたも太刀とてたうたも柄と鞍

わてぎのなまういひと綱のなまうい

くろつるひと綱もくろつる

一乃りそごいぬきあ輪とつめく鑑とあまづーむ  
 らんこさて耳のく人かすとん 女つをさうべー  
 一ふるりめりや右の女はくい女をさく野髪と丸  
 そくたの女はくい輪のま輪と元ゆびと四一て  
 かくくめりく一れと和山押とふ  
 一不乃のらとさうあさうて右へくらあくをた  
 てあさりめさうらてさくまとあゆ包あつて去  
 うりはとのりて扱ささうらぬとまもまの  
 友のりて糸かさびべーくぬくのまの乳のあさ  
 ねもさくめりあまうら足らさくくはも湯



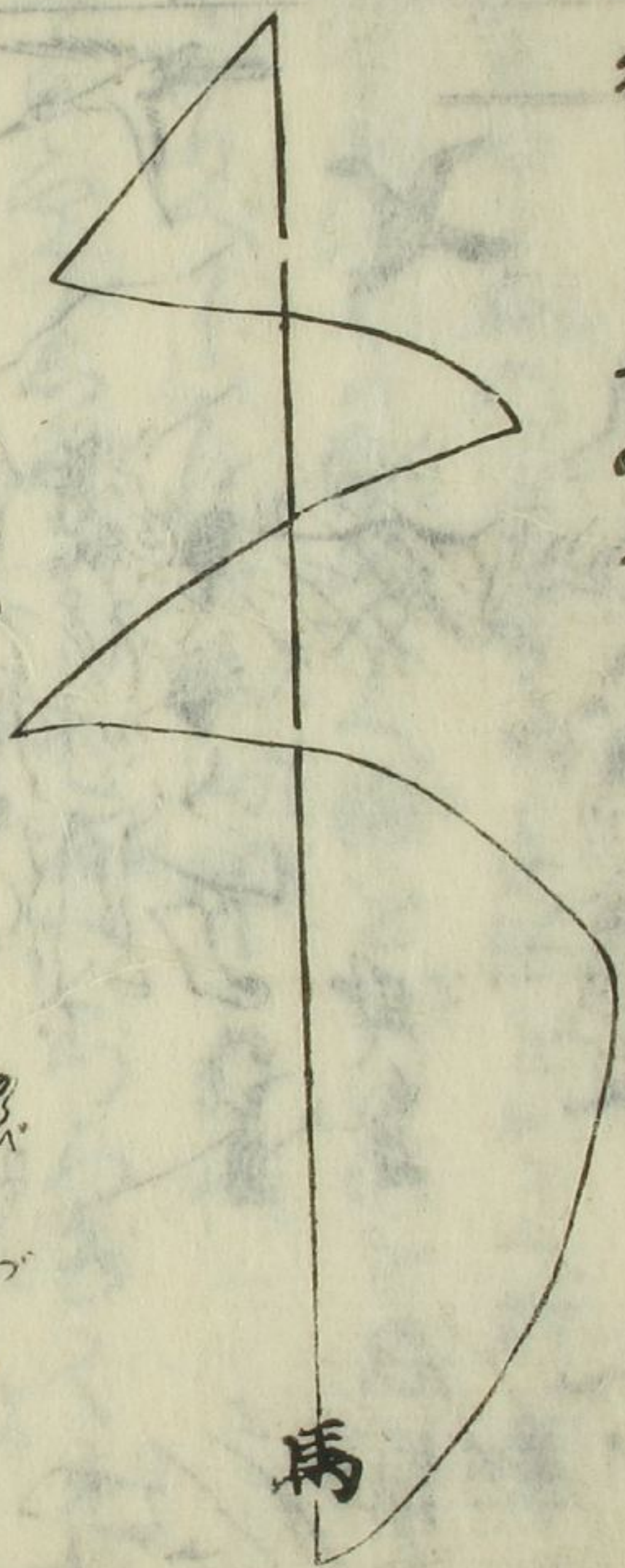
百舌野

仁徳天皇

百舌野  
瀬君

つきのりそごごうにえゆうんこのみり極  
との儀行といふ馬の

儀行



八 馬の名所とあつり 和圖

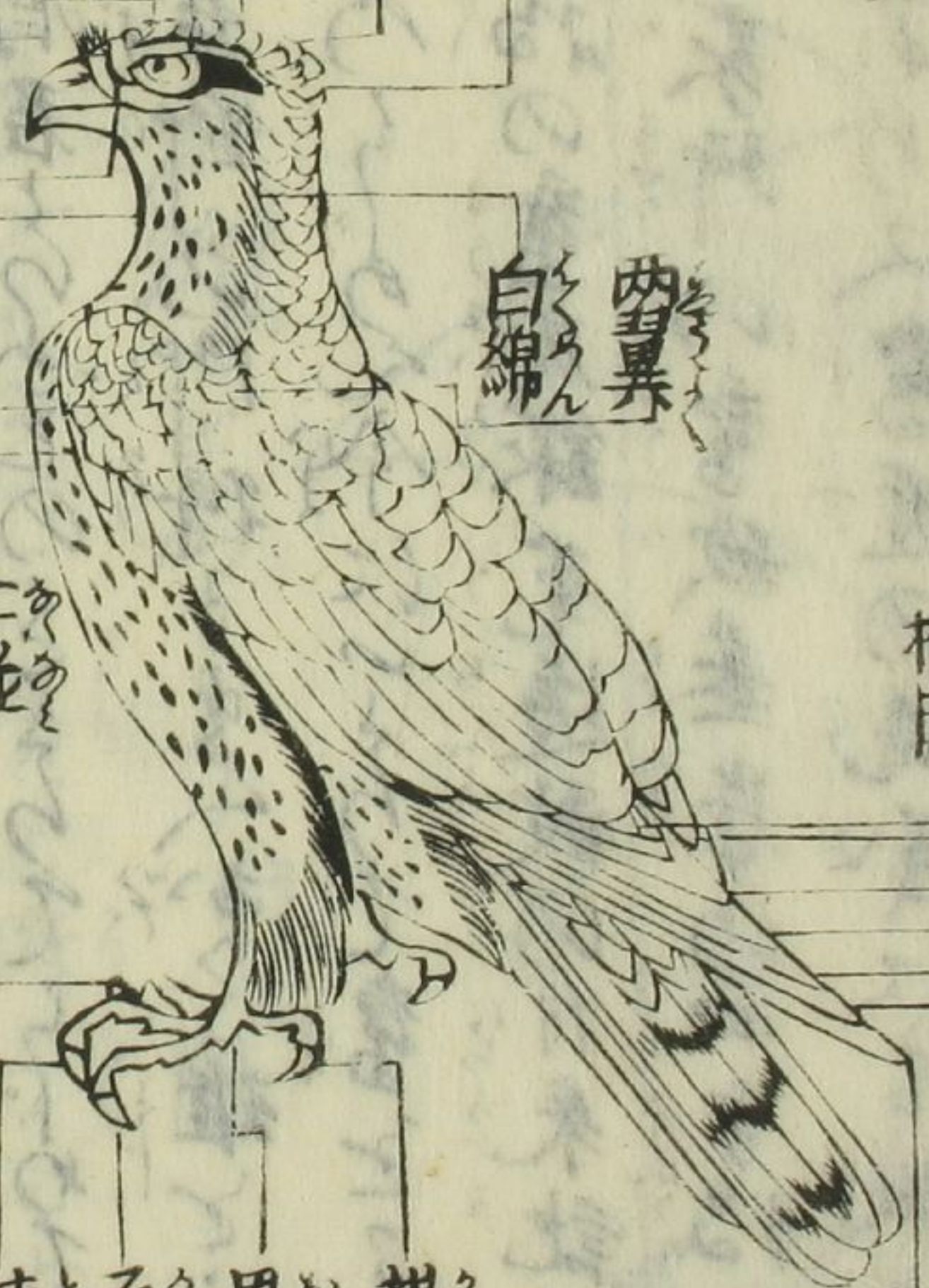
とろこしに聖人馬としあらてると持弓とぬく獸  
と遂とね田畠五穀とさゆとくかくあへくれと武乃  
とこととろろりハ軍場の是があらぬ等官かり春年也

にわつりしとろお馬持のころの仁徳天皇四十二年九月  
依納の屯倉の阿拜古といふ人異馬ととてまうり何財  
に百濟の王子酒君といふものさころてらめてつのも  
といつとね必百右野の御持とてかく難とらり  
これ日本書持のころの今にいりて馬ととるもつ  
とらりて交野女物の馬成録菟道敵の月来記持明  
院の三考傳定家所の馬教基序の四方傳をせと  
てとつ物如舊記あり又馬匠の流義にも諏訪流又  
と字教文流祢津流とて流流あり馬の生の名不  
あつり馬とらりてたし圖也

○高樓の頭上  
○山入の今更  
○煮豆の毛  
○持香のふり  
○かゝのこころ  
○わにのくわね  
○のちら山廻  
○乱舞の毛  
○生合の毛  
○熟付の毛  
○百羽の毛  
○眼門の両目

各所之圖

山忘  
山入  
高樓  
眼門  
眼掩  
乱舞  
熟付



白綿  
肉翼

七翼

散雪  
風流  
折目

水道  
車轆  
七並

掛丸  
鬼平  
及拳  
捕居  
打丸

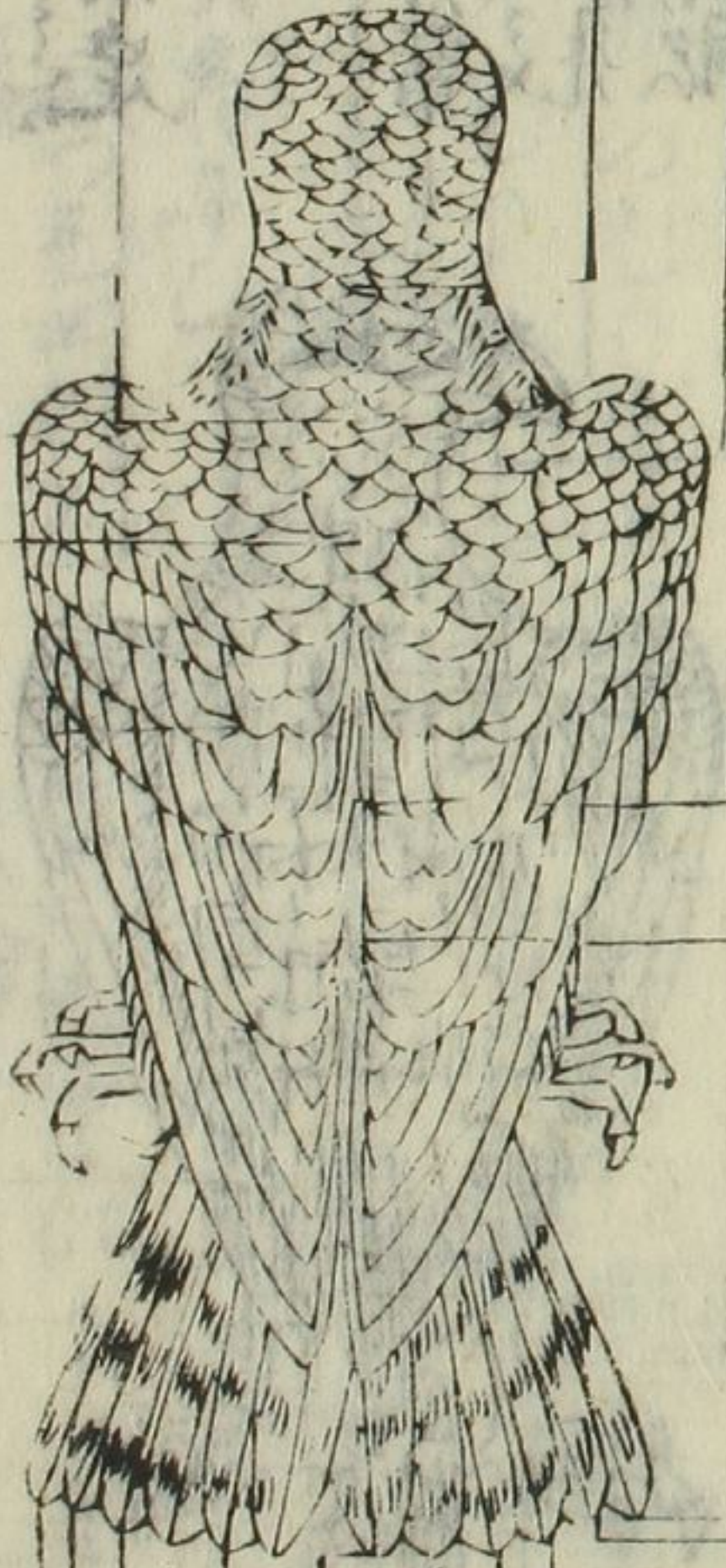
霜山  
万里  
羽枝  
長尖

○眼門の両目  
○山忘の毛  
○まぐりなま  
○受節の毛  
○喰入の毛  
○けりえの毛  
○とまの毛  
○骨先の毛  
○三毛  
○水邊の毛  
○府豆の毛  
○のどろの毛  
○はとの毛

持香  
勝者

山廻  
風拂  
三毛

身寄  
方



徒先  
方

快槽

眼宿  
九折

大石  
小不  
鳴尾  
助尾  
鈴付





